



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月28日

上場会社名 小松マテレー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3580 URL <https://www.komatsumatere.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 久衛
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理副本部長 (氏名) 中村 重之 (TEL) 0761-55-8000
 四半期報告書提出予定日 2020年11月12日 配当支払開始予定日 2020年11月30日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	15,979	△12.8	632	△17.2	887	△15.2	640	9.4
2020年3月期第2四半期	18,325	△6.7	763	△29.7	1,046	△24.1	584	△41.0

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 745百万円(52.8%) 2020年3月期第2四半期 487百万円(△23.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	14.92	—
2020年3月期第2四半期	13.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	45,324	34,980	77.2	815.33
2020年3月期	45,973	34,855	75.5	809.39

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 34,980百万円 2020年3月期 34,725百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	7.00	—	8.00	15.00
2021年3月期	—	8.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注) 2021年3月期期末の配当金につきましては、公表が可能になった時点で速やかに開示する予定であります。

3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,200	△17.3	1,620	0.5	2,200	2.2	2,000	45.4	46.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2021年3月期2Q	43,140,999株	2020年3月期	43,140,999株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2021年3月期2Q	237,816株	2020年3月期	237,634株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2021年3月期2Q	42,903,313株	2020年3月期2Q	42,903,670株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算補足説明資料は、決算発表後すみやかに当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期キャッシュフロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、緊急事態宣言解除後の経済活動の再開に伴い一時は回復の兆しが見られましたが、特に都市部における新規感染者増加の影響を受けたことから、個人消費の停滞が続き、先行きが不透明な状況となっております。また、依然として諸資源の価格変動は大きく、一部に供給不安もあるなど、注視すべき状況にあります。

国内需要については、ECサイトによるオンライン店舗が急増する一方、従来型の百貨店を含む小売業態は低迷が続き、商業施設の営業時間の短縮や外出自粛によるマイナスインパクトも重なり、消費は総じて弱含みの状況が続いております。

海外需要については、欧州を中心として一部でのロックダウンや、外出自粛による消費マインドの低下と購買志向の変化や大規模なイベントが制限されるなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響から消費は総じて落ち込みました。

このような経済環境のもと、当社グループは市場低迷を克服するとともに、変化する市場ニーズに対応するため、あらゆる施策を実行してまいりました。

当第2四半期においては受注が低減する中、特に固定費管理を強化し、販売管理費を含めた不要不急な費用の抑制を図るとともに、生産におけるロス削減に注力し、トータルコストダウンを推進し、利益低減幅を最小限に留め、利益を下支えしました。

また、厳しい市場環境にあるがゆえ、需要喚起のため、技術開発を加速させ新商品の上市を意欲的に実行しました。その結果、今期の上期には計7件の新商品のプレスリリースを行いました。代表例として、ウイルスを酸化分解する新技術「ウイルスシールド」を開発し、当該技術を環境に優しいエコマスク及びマスクインナーに採用した新商品「ダントツマスクール」の販売を伸ばしました。次いで、「ウイルスシールド」を進化させ、コロナウイルス(ヒト)へも効果を発揮する「エアロテクノ」を搭載したマスク及びマスクインナーの販売をスタートさせました。さらに、全国マスク工業会の資格審査を通過したことにより、当社の販売するマスクについては品質と安全が認められた商品として、提供することができました。

加えて、触媒を用いた高速消臭素材「ム臭まい」の上市、豪雨災害における軽量で持ち運びが容易な備蓄用土嚢「グリーンビズどこのう WS」や避難所における感染症拡大防止のため抗ウイルス加工を付与した間仕切りの生産、販売も開始しました。このように、社会ニーズに的確に対応する新商品を開発・上市し、社会問題の解決に努力しました。

なお、新技術の開発に伴う特許申請については、前年通期実績10件に対し、当中間決算の段階で一部出願準備中を含め計29件の特許申請となっております。

新型コロナウイルス感染拡大により対面販売の制約を受ける中、今期よりWEB環境を活用した販売を促進させるため「EC事業推進室」を新設しました。製品事業として衛生・感染症予防商品を中心としたネット販売(B to C)を開始するとともに、従来の集客型の展示会に代わる「YouTube」を利用した「LIVE動画配信」(ウェビナー)による双方向型のWEB上での営業活動を行うなど、新たな販売促進にも取り組みました。

このように、新型コロナウイルス感染症による影響を最小限に抑えるとともに、今期の期初には「中期経営計画」を社内を設定し、当該計画に従い目指す高収益企業の実現に向け、布石となる様々な取り組みにチャレンジしました。

また、SDGsの達成を含む環境事業の推進については、環境保全のための目標設定や環境改善活動の実施、監査等の環境マネジメントを継続しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は159億79百万円(前期比12.8%減)となり、営業利益は6億32百万円(前期比17.2%減)、経常利益は8億87百万円(前期比15.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億40百万円(前期比9.4%増)となりました。

セグメントの業績につきましては、次のとおりであります。

(繊維事業)

衣料ファブリック及び資材ファブリックの両部門において、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、当第1四半期に続き、当第2四半期においても事業環境は依然として、厳しい状況に置かれました。

まず、衣料ファブリック部門に関しては、国内外において高感性・高機能素材の開発と市場導入を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したことから、スポーツ分野及びファッション分野においては、国内は減収、欧州向けアッパーミドルのみならずラグジュアリーにおいても前期比3割程度落ち込む結果となり、総じて減収となりました。一方、中東向けの民族衣装においては新型コロナウイルスの影響を受けながらも、計画通り、順調に推移し前期比約15%の増収となりましたが、当部門全体では前期比24.2億円(約2割)の減収となりました。

次に、資材ファブリック部門では、車輛分野は生産調整の影響を受け減収となりました。さらに医療・福祉のメディカル分野及び生活関連資材分野におきましても新型コロナウイルス感染拡大の影響による消費停滞により減収となりました。加えてリビング分野については、カーテン等の定番品をはじめとする不採算素材群からの撤退を図ったことにより減収となり、北米向けオーディオ機器等も落ち込んだ結果、当部門全体では前期比8.4億円(約16%)の減収となりました。

製品部門におきましては、EC事業の推進とともに、市場ニーズに応える抗ウイルス加工を施した衛生・感染症防止対策商品の販売を進めたことにより、増収となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当事業の売上高は156億80百万円となりました。

(物流物販事業)

物流並びに物販分野の当第2四半期連結累計期間の売上高は2億99百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、453億24百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億49百万円減少しました。これは主に投資有価証券が4億24百万円、商品及び製品が2億43百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が12億94百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、103億44百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億73百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金が8億68百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、349億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億24百万円増加しました。これは主に為替換算調整勘定が1億48百万円、非支配株主持分が1億30百万円減少したものの、利益剰余金が2億95百万円、その他有価証券評価差額金が2億9百万円増加したことによるものであります。

②当期のキャッシュ・フローの概況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ1億24百万円増加し、84億71百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は20億9百万円（前年同期は19億67百万円の資金の増加）となりました。収入の主な内訳は、売上債権の増加額12億92百万円、減価償却費6億30百万円、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額8億59百万円、法人税等の支払額2億20百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は15億1百万円（前年同期は16億77百万円の資金の増加）となりました。収入の主な内訳は、投資有価証券の売却及び償還による収入1億99百万円、支出の主な内訳は、固定資産の取得による支出15億6百万円、投資有価証券の取得による支出2億21百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は5億66百万円（前年同期は3億68百万円の資金の減少）となりました。これは主に、配当金の支払額3億43百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、本日公表しております「業績予想及び剰余金の配当(中間配当)に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,603	8,479
受取手形及び売掛金	7,714	6,419
商品及び製品	1,787	2,031
仕掛品	788	568
原材料及び貯蔵品	1,961	1,415
その他	267	264
貸倒引当金	△22	△17
流動資産合計	21,100	19,161
固定資産		
有形固定資産	8,032	7,843
無形固定資産	356	320
投資その他の資産		
投資有価証券	14,134	14,558
繰延税金資産	1,678	1,913
その他	676	1,529
貸倒引当金	△4	△2
投資その他の資産合計	16,484	17,999
固定資産合計	24,873	26,163
資産合計	45,973	45,324

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,637	3,769
未払法人税等	311	341
賞与引当金	548	646
その他	1,550	1,538
流動負債合計	7,047	6,295
固定負債		
役員退職慰労引当金	329	328
退職給付に係る負債	3,651	3,632
その他	89	88
固定負債合計	4,070	4,048
負債合計	11,118	10,344
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,680	4,680
資本剰余金	4,701	4,602
利益剰余金	26,075	26,371
自己株式	△119	△119
株主資本合計	35,339	35,535
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△686	△476
為替換算調整勘定	56	△91
退職給付に係る調整累計額	15	13
その他の包括利益累計額合計	△613	△555
非支配株主持分	130	—
純資産合計	34,855	34,980
負債純資産合計	45,973	45,324

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	18,325	15,979
売上原価	14,821	12,831
売上総利益	3,504	3,148
販売費及び一般管理費	2,740	2,515
営業利益	763	632
営業外収益		
受取配当金	93	84
持分法による投資利益	133	100
為替差益	—	8
その他	82	83
営業外収益合計	309	277
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	22	—
不動産賃貸原価	4	10
その他	0	11
営業外費用合計	27	22
経常利益	1,046	887
特別利益		
投資有価証券売却益	2	82
特別利益合計	2	82
特別損失		
固定資産売却損	—	2
固定資産除却損	20	14
投資有価証券評価損	205	81
関係会社整理損	—	333
特別損失合計	225	431
税金等調整前四半期純利益	823	538
法人税、住民税及び事業税	286	286
法人税等調整額	△52	△383
法人税等合計	233	△97
四半期純利益	589	635
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益	584	640

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	589	635
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△43	215
為替換算調整勘定	△51	△96
退職給付に係る調整額	1	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	△8	△5
その他の包括利益合計	△101	110
四半期包括利益	487	745
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	487	753
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△7

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	823	538
減価償却費	603	630
のれん償却額	5	5
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	23	△23
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△5	△6
持分法による投資損益(△は益)	△133	△100
受取利息及び受取配当金	△128	△124
支払利息	0	0
固定資産除売却損益(△は益)	20	16
投資有価証券売却損益(△は益)	△2	△82
投資有価証券評価損益(△は益)	205	81
関係会社整理損	—	333
売上債権の増減額(△は増加)	756	1,292
たな卸資産の増減額(△は増加)	35	514
仕入債務の増減額(△は減少)	△342	△859
その他	182	△121
小計	2,043	2,094
利息及び配当金の受取額	130	135
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△206	△220
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,967	2,009
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△0
有価証券の償還による収入	1,000	—
投資有価証券の取得による支出	△1	△221
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,002	199
固定資産の取得による支出	△323	△1,506
固定資産の売却による収入	—	27
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,677	△1,501
財務活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△222
配当金の支払額	△343	△343
自己株式の取得による支出	△0	△0
その他	△24	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△368	△566
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15	△65
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,260	△124
現金及び現金同等物の期首残高	4,778	8,596
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,038	8,471

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	繊維事業	物流物販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,017	307	18,325	—	18,325
セグメント間の内部売上高 又は振替高	17	994	1,011	△1,011	—
計	18,035	1,301	19,337	△1,011	18,325
セグメント利益	750	6	757	5	763

(注) 1 セグメント利益の調整額は、すべてセグメント間の取引調整であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	繊維事業	物流物販事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,680	299	15,979	—	15,979
セグメント間の内部売上高 又は振替高	112	916	1,028	△1,028	—
計	15,793	1,215	17,008	△1,028	15,979
セグメント利益	622	4	626	6	632

(注) 1 セグメント利益の調整額は、すべてセグメント間の取引調整であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。